

平成 22 年 11 月 15 日

非血縁者間骨髄採取・移植認定施設責任医師
地区代表協力医師
調整医師
コーディネーター
職員

各位

財団法人 骨髄移植推進財団
理事長 正岡 徹

理事長からのお願い

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃は骨髄バンク事業の推進に多大なご尽力を賜り心から感謝申し上げます。

おかげさまで、近年は毎年移植例数が前年比 1 割増で推移し年間移植例数は 1200 例を超えるまでになりました。骨髄バンクを介した移植例数は累計で本年 10 月末現在 12324 例に達して、事業は順調に推移しております。これもひとえに皆様のご努力のたまものであると、重ねて御礼申し上げる次第です。

さて、移植例数は増加しておりますが、一方では、骨髄採取に伴うアクシデントやインシデント事例、トラブルとなった例も散見されております。

具体的には、骨髄提供後に採取部位の痛みが長期にわたって持続している例、骨髄採取上限量を超過した例、骨髄採取後にヘモグロビン値が 9mg/dl 以下（原因不明）となった例、自己血保存に問題があった例、尿道痛などをきっかけにドナーが採取施設および財団の対応に不満を訴えられている例などが複数例報告されております。

関係者の皆様におかれましては、引き続きマニュアルを遵守してご対応いただきますとともに、問題が発生した場合は、可及的速やかに財団地区事務局、または中央事務局にご連絡いただきますようお願い申し上げます。ご報告、ご相談を密にすることで関係者が連携し、委員会委員や財団理事の意見を求め、必要に応じて外部の専門家等にアドバイスをいただくなどして、迅速な対応と解決をめざし、組織として適切に対応するよう努めてまいりたいと存じます。

今後とも、一人でも多くの患者さんを救命するため、また、ボランティアドナーの健康と安全を守るため、一層のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

謹白